令和2年8月19日　北海道新聞　朝刊
本学掲載記事

＃大学とコロナ
＃夏休み後の授業

対策徹底 対面授業を模索

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、道内の多くの大学は４月以降、苦心してオンライン授業などを行いながらようやく夏休みの時期を迎えた。コロナの終息が見通せない中、学生の健康に配慮して学びを中心に充実した学生生活ができるように支援していくことは、依然として大きな課題だ。夏休み後はどのような形で授業が行われるのか、道内の動きを探った。（青山実）

臨時の手洗い場を設置

「オンライン授業をベースにしつつ、対面授業を増やしていきたい」。北星学園大学の鈴木剛副学長(64)は、12日に学内で確認した夏休み後の授業についてこう話す。同大では４月に１週間休講した後、大型連休明けの５月11日からオンライン授業を始めた。対面授業については感染を不安視する声がある一方、再開の要望も多いことから換気や消毒を徹底し、校舎入り口に臨時の手洗い場も設置。７月から一部ゼミなどで対面を再開したが、夏休み前までは「授業全体の１割未満」（事務局）にとどまった。鈴木副学長は「学生は本来できるだけキャンパスで過ごしてもらうのが望ましく、後期はもう少し対面を増やす方向で慎重に機会を探っていく」と話す。

オンラインを中心にしてきた大学の中では小樽商大や帯広畜産大も夏休み後は対面を広げる機会をうかがう。北大は今後「感染状況に応じてオンラインと対面を使い分けていく」（学務部学務企画課）としており、釧路公立大も同じ方針。北海学園大は「対面とオンラインの組み合わせを検討中で９月上旬に公表の予定」（新型コロナウイルス対策本部）だ。北広島市の星槎道都大は６月に対面を再開。教室の席の間隔を開けるなどして今の体制を続ける。同様に夏休み前に対面を再開できた旭川大と函館大も現状を維持していく。

授業内容見直す教員も

これまでのオンライン授業では大学を問わず学生の間から「課題が多すぎる」「リポートを出してもフィードバックがなく、手応えがない」などの声も出ている。こうした状況に対してある道内私大の教授(60)は「授業用の動画づくりであっという間に１週間が過ぎ、フィードバックは遅れがちだった」と反省を込めて振り返る。北海学園大の今野喜文教授(49)＝経営戦略論＝は「課題をたくさん出すのはより多くのことを学生に学んでほしいため」とした上で、「後期は学生が過剰な負担を感じることなくもっと主体的に学べるように講義方法を見直したい」と話す。

授業は学内に限らない。学生が小樽市民と連携して地域課題の改善に取り組むことを授業として行っている小樽商大の大津晶（しょう）准教授(48)＝都市計画学＝は、「調査や打ち合わせは一部オンラインで代替でき、工夫次第ではいろいろな可能性があることも分かった。オンラインとフィールドワークの効果的な組み合わせを探っていきたい」として学生と新たな領域に挑む。

夏休み後の学生の過ごし方として、札幌市内で学生生活全般の相談に応じているキャリアコンサルタントの赤坂武道さん(43)は「多くの大学は学生の意向をくんで学びの機会を提供するために情報発信やアンケートなどさまざまな取り組みをしている。学生はぜひ積極的に動いて勉強の機会や就職活動の情報をつかんでいってほしい」と話している。

道内の大学の夏休み期間とその後の授業形態の例(8月12日時点)

大学	期間	夏休みが短縮された期間	夏休み後の授業形態
旭川大学	8月下旬～9月下旬※	2～3週間	原則は対面、状況に応じてオンライン拡大
小樽商科大学	8月15日～9月27日	1週間	原則はオンラインで、可能な限り対面も
帯広畜産大学	8月17日～9月30日	なし	原則はオンラインで、一部対面も併用
釧路公立大学	8月6日～9月22日	なし	オンラインと対面のいずれか、または併用
星槎道都大学	8月8日～8月26日	3週間	原則は対面、状況に応じてオンライン拡大
函館大学	8月11日～9月22日	なし	原則は対面、状況に応じてオンライン利用
北星学園大学	8月15日～9月13日	1週間	基本はオンラインで、可能な限り対面も
北海学園大学	8月13日～9月18日	5日間	状況に応じた規模の対面の実施も検討中
北海道大学	8月26日～9月25日※	3週間	オンラインと対面のいずれか、または併用

※学部によって期間は異なる。北海道大学は全学共通の1年生の期間。大学は五十音順

間隔を開けるように机に⊗印の付いた教室で授業を受ける学生＝7日、星槎道都大（中村祐子撮影）